

かんたけ たんが 神嶽川旦過地区河川整備計画に関する考察

A study on the Kantake river improvement plan for the Tanga area in Kitakyushu City

企画部 参 事 高橋 秀和
企画部 部 長 丸岡 昇

紫川支川の川地区は、老朽化した小規模店舗が密集し、火災等の防災上からもその改善が長年の懸案となっていたが、ようやく再開発事業の胎動が始まり、手つかずであった河川改修事業にも明るい兆しが見えてきた。

本研究は、神嶽川旦過地区の水辺空間整備を、再開発事業と一体として進めるための検討を行ったものである。具体的には、神嶽川旦過地区における河川整備及びまちづくりの課題を抽出し、水辺空間整備の基本的な考え方、整備コンセプト、利用形態及び整備方針について検討し、①地域に根ざし地域の多様な人々が集う空間、②清らかな水の流れを活かした魅力的な空間、③庶民の台所として親しまれてきた旦過市場の雰囲気配慮した空間、の3つの視点から水辺空間整備プランを作成し、賑わいの水辺空間創出の提案を行った。

キーワード：河川整備、再開発事業、旦過市場、賑わい

The Tanga area in Kitakyushu City has many old, small shops, and the nearby Kantake River is narrow and in dire need of improvement. The area is extremely vulnerable to urban hazards, especially fires and flooding, and has lost its attraction to customers. In an earnest attempt to rectify the situation, the city authority and some of the residents of the area have begun to make plans for redevelopment and river improvement.

This study ensures that a harmonious relationship exists between the river-improvement plan and the redevelopment plan in resolving the complex problems of the Tanga area. The plan contains a basic principle, target concepts, customer usage patterns and details on facilities.

The target concepts are as follows:

- (1) Creating a space for the local community
- (2) Creating a space with attractive riverfront landscape and access to clean water
- (3) Preserving the original atmosphere of the old and once-popular Tanga market

Key words : river improvement, redevelopment project, Tanga market, prosperity

1. はじめに

北九州市の小倉地区は、市の「都心」と位置づけられ、紫川マイタウン・マイリバー整備事業（以下、MM事業と略称する）等により河川を中心としたまちづくりが進められ、安全で美しく活気のあるまちが実現しつつある。

そのような地区にあって、紫川の支川である神嶽川には、市の台所として長年親しまれてきた^{かんたけ}旦過市場が隣接し、生鮮市場として重要な役割を果たしてきたが、その一方で川に張り出した建物が河川改修上の課題となっていた。しかし、建物の老朽化、道路の狹隘等、都市防災上の課題から、近年、旦過地区再開発の準備組合が発足するなど新たなまちづくりが動き始め、河川改修事業も実施に向け検討が必要となってきた。

以上から、本研究は、安全で、美しく、活気にあふれた北九州市小倉地区にふさわしい再開発事業と一体となった神嶽川旦過地区の整備計画について考察を行ったものである。

対象区間を以下に示す。青丸が河川整備対象区間、赤丸が再開発地域を示す。



図一 対象区間

検討は神嶽川の現況と、再開発事業の内容を考え合わせ、河川改修がまちづくりのイメージと整合するよう配慮して行った。

2. 神嶽川の現況及び治水計画の概要

神嶽川の現況及び治水計画の概要は以下の通りである。

2-1 神嶽川の現況

神嶽川は、小倉北区足立山に源を発し中心市街地部を流れ、中津口地点にて砂津川を分流し、船場町で紫川に注ぐ、延長2.78km、流域面積約8.75km²の二級水系紫川の支川である。

旦過地区を流下する平和橋から旦過橋の約170m区間は、石積護岸による単断面構造で、兩岸とも管理用通路は設置されていない。左岸側は、川と大通りに挟まれる形で中層の商業・業務ビルが河岸の際までせり出し建ち並んでいる。右岸側は、旦過市場が隣接し、その建物が川側に張り出しており、河川改修上の懸案となっている。

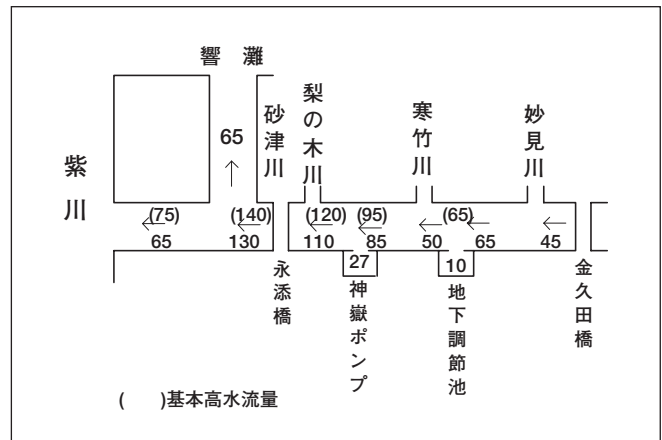


写真一 神嶽川旦過地区の状況
(左側の市場は河川に張り出している)

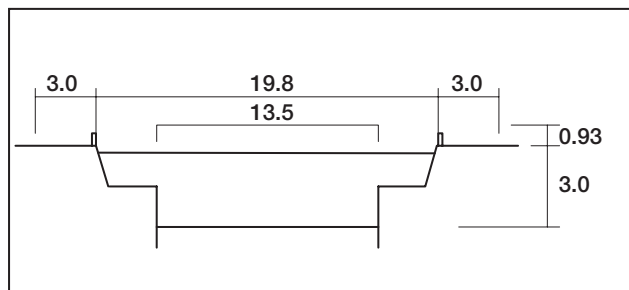
2-2 治水計画の概要

神嶽川は、昭和45年度から河川改修事業により計画規模1/30で改修を進め、現在、護岸の整備は旦過地区を残して概ね完了している。

近年、流域の都市化の進展により人口・資産の集積が進んでいることから、更に治水安全度の向上が必要となったため、計画規模を1/50に見直し、平成6年度から地下調節池を含めた河道改修を行っている。



図二 神嶽川流量配分図



図一3 神嶽川代表断面図（旦過地区）

3. 旦過地区の現況及び再開発について

旦過地区の現況及び再開発事業の概要は以下の通りである。

3-1 旦過地区の概要

旦過地区は小倉中心商業地域の一角に位置し、全国的にも有名な「旦過市場」があり、約200の商店が店を連れ、また、都市モノレール旦過駅に隣接し利便性にも優れているが、老朽化した木造建築物が密集し、防災上・都市景観上の課題が多く、早急な市街地整備が望まれている。



写真一2 旦過市場の現況（入口）



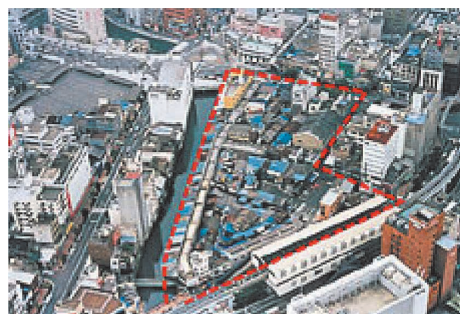
写真一3 旦過市場の現況（商店街）

3-2 再開発について

旦過地区の再開発は、北九州全市的な視野に立って、既成市街地の計画的な再開発を推進するための長期的、総合的な再開発のマスタープランとして設定され

た北九州市都市再開発方針に基づく対象地区の再開発事業である。

旦過市場は「市民の台所」として親しまれている。この市場の機能と雰囲気を残して、まちが再生されるよう、土地の高度利用と建物の不燃化を進め、都市機能の更新を図ることとしている。



写真一4 再開発予定地区

4. 河川整備及びまちづくりの課題

神嶽川の水辺空間整備における、河川整備上の課題とまちづくり上の課題を整理する。

4-1 河川整備上の課題

- ・沿川の建物がネックとなり、当該区間は未改修の状態である。
- ・河道は、コンクリートの直立護岸と鋼矢板による無機的な魅力のない空間となっている。
- ・沿川の建物は川に背を向け、老朽化した壁面や設備機器が張出し、劣悪な景観を呈している。
- ・水質は良く、清流の川であるが、人が近づける箇所はなく、また、ゴミ等が河床に沈み、流水の魅力が活かされていない。

4-2 まちづくりの課題

- ・旦過市場は、古くから市民の台所として親しまれ、買い物客でにぎわっていたが、バブル経済崩壊以後、売上が低下傾向にあり、再活性化が望まれている。
- ・老朽化した木造建築物が密集していることから防災上大きな問題となっている。

5. 水辺空間整備の基本的な考え方

上記を踏まえ、神嶽川の水辺空間整備の基本的な考え方を、「川づくり」、「まちづくり」、また、当該地区はMM事業の区域に含まれていることから「MM事業」の3つの視点から整理する。

《川づくりからの視点》

- ・神嶽川は、大都市域の市街地を流れる川としては清流の川である。そのため、この流れを活かした質の高い水辺整備を行うことで、多くの人々が集まる地域の拠点となる。

- ・市のシンボルとして市外から多くの人々が訪れる紫川とは異なり、地元住民が身近にふれ合う地域の川であることから、地域のニーズにあった拠点整備が必要となる。

《まちづくりからの視点》

- ・小倉の中心市街地で、かつ駅前大通りである平和通と小文字通りに挟まれた小倉地区の中で最も活気のある魚町の一端を成すことから、地域のシンボルの一つとして整備する必要がある。
- ・再開発事業では、「市場機能と雰囲気を残し、魅力ある地区」として再生することが目的として掲げられていることから、河川との一体整備により、市場の雰囲気に配慮した魅力ある空間整備を行う必要がある。

《MM事業からの視点》

- ・「200万都市圏の中核にふさわしい北九州市の顔づくり」を目指すMM事業の中で、商業系及び住居系地域の中心として、活気と賑わいを創出する空間を整備する。
- ・川づくり、まちづくりにおいて多くの問題を抱える且過地区の整備は、MM事業においても重点施策である。MM事業の事業目的を達成するために、まちづくりと一体となった河川整備を実施し、魅力ある空間を整備する。

6. 水辺空間整備計画（素案）

水辺空間整備の基本的な考え方から、整備コンセプトを設定した。それに基づき利用者及び利用の場を設定し、それを実現するための整備方針と具体的なプランを提案する。

6-1 整備コンセプト

前章の水辺空間整備の基本的な考え方から、以下の空間をイメージし、整備コンセプトを設定する。

- ・地域に根ざし地域の多様な人々が集う空間
- ・清らかな水の流れを活かした魅力的な空間
- ・庶民の台所として親しまれてきた且過市場の雰囲気に配慮した空間

【整備コンセプト】

庶民的情緒の香る、にぎわいの水辺づくり
～憩い・遊び・ふれあいの場～

6-2 利用者と場の設定

にぎわいの水辺空間、すなわち、多くの人が集まる

水辺空間と考え、これまで買い物という単機能であった空間が、地域の多様な人々を呼び込む多機能な空間となるよう水辺空間整備プランを作成する。そこで、まず、地域において想定される利用者を以下の通り設定した。

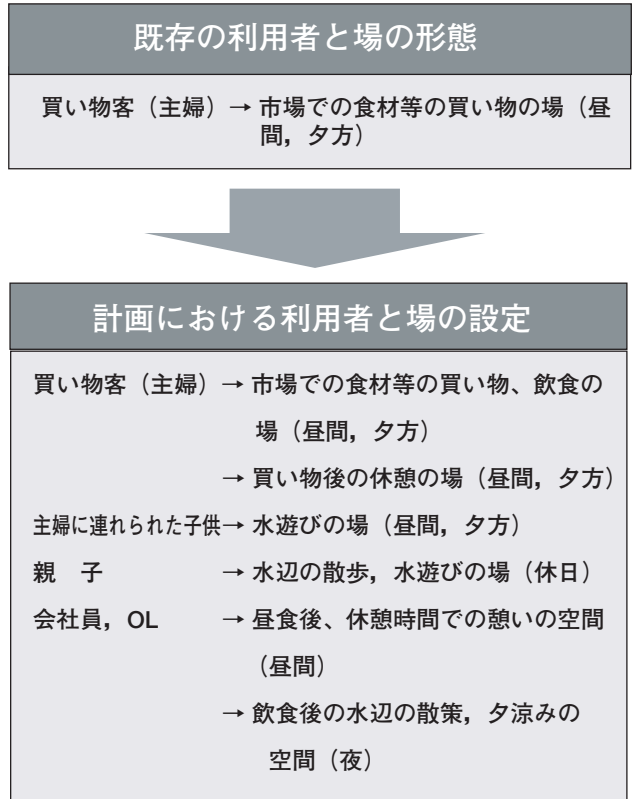


図-4 利用者及び利用形態の設定

6-3 整備方針の設定

想定される利用者に対し、それぞれの利用の場の整備方針を以下の通り設定した。

- ① 買い物客が市場空間を楽しむための空間づくり
 - ・橋詰め広場や管理用通路を店舗のオープンテラスとして活用
 - ・水辺の景観を楽しんだり、川からの心地よい風を感じながら、買い物途中に休憩したり、軽い食事をしたり、友人との会話を楽しむ空間として整備
- ② 子供達の遊びの基地となる空間づくり
 - ・低水敷や親水護岸の整備により、小学校低学年程度の子供達が、足を入れて水の感触を楽しんだり、水辺の生き物を見つけて楽しんだりする空間として、川の魅力を活かした整備
 - ・且過駅前の広場に噴水や人工の水辺をつくることにより、お母さんに連れられた幼児が水しぶきを浴びたり、水に入って遊ぶことのできる、安全な水遊びの空間を整備

- ③親子のふれ合いの場としての空間づくり
 - ・広場や低水敷、親水護岸の整備により地域の親子連れが、広場で子供と遊んだり、水辺を一緒に歩いたり、休日に身近に遊びに行ける水辺公園としての整備
- ④社会人の安らぎの場としての空間づくり
 - ・店舗の前のオープンテラスや橋詰め広場、駅前広場を休憩スペースとして整備
 - ・平和通や小文字通りに面するオフィスビルで働く会社員、OLが水辺の景観を楽しんだり、川からの心地よい風を感じながら、気の合う仲間との昼食や会話を楽しむ憩いの場としての整備
- ⑤より多くの賑わいを生み出すソフト施策に対応した空間づくり
 - ・日常的な市場としての利用だけでなく、駅前広場や川沿いの通路を利用した定期的な朝市、休日を利用したフリーマーケット、イベント等の開催の場として活用
 - ・空間を有効に利用し、より多くの市民に神嶽川に親んでもらうためのソフト施策に対応できる広場整備
- ・夕方、会社帰りに市場の飲食街や旦過橋の屋台で食事やお酒を楽しんだ後の散歩や夕涼みの空間として整備

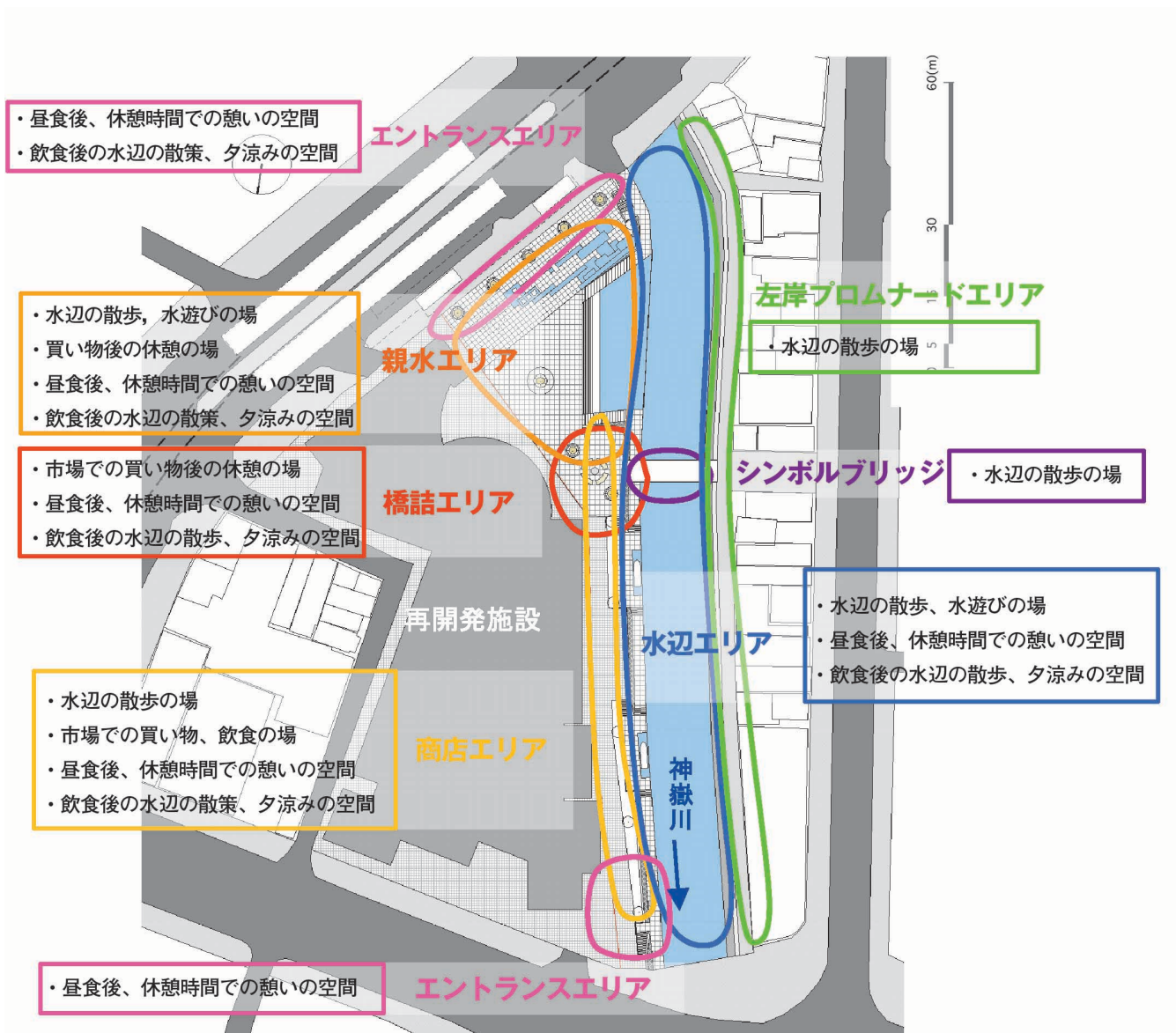


図-5 ゾーニング

6-4 プランの作成

これまでの検討から、以下のプランの作成を行った。

- ・橋を挟んで北側は、商業施設が川沿いに整備されることから、商業施設の利便を考慮し、川を眺めるだけでなく、河川管理用通路を商業施設のテラスと見なし、買い物空間あるいは食事を楽しめる空間とした。
- ・南側は、まとまった広さを有する広場（拠点空間）として、シンボルツリーや水辺空間をつくり、神嶽川のエリア全体の魅力を向上させた。
- ・親に連れられた小さな子供が安全に遊べるように、また、河川水面だけではなく、噴水やせせらぎ等の多様な水辺をつくり、豊かな水を感じさせる親水空間とした。
- ・同時に、多目的な利用が可能な広場空間として、フリーマーケット等のイベントの開催など新たな空間利用を可能とした。
- ・小段部分については、水際を歩ける空間として、また、当時の魚河岸の雰囲気の創出及び子供たちが乗って水遊びができるように伝馬船の係留、一部小段

を切り下げることにより、水に触れたり、より水面に近づける構造とした。

さらに、再開発事業との一体整備による賑わい空間の創出をねらい、以下の工夫を行った。

- ・管理用通路を再開発ビルと共有することにより、川側にファサードを向けたまち並みを創出
- ・店の軒先としての管理用通路の活用による、空間の有機的なつながりの創出
- ・再開発により生み出される空地と一体的に整備した潮の干満を感じられる潮入り型親水空間の創出
- ・昔の市場の雰囲気を感じさせるレトロ調の建物に合わせた、護岸の色彩及び素材（アースカラーで落ち着いたトーンの自然石を利用）



図-6 水辺空間整備プランイメージ図（北側）

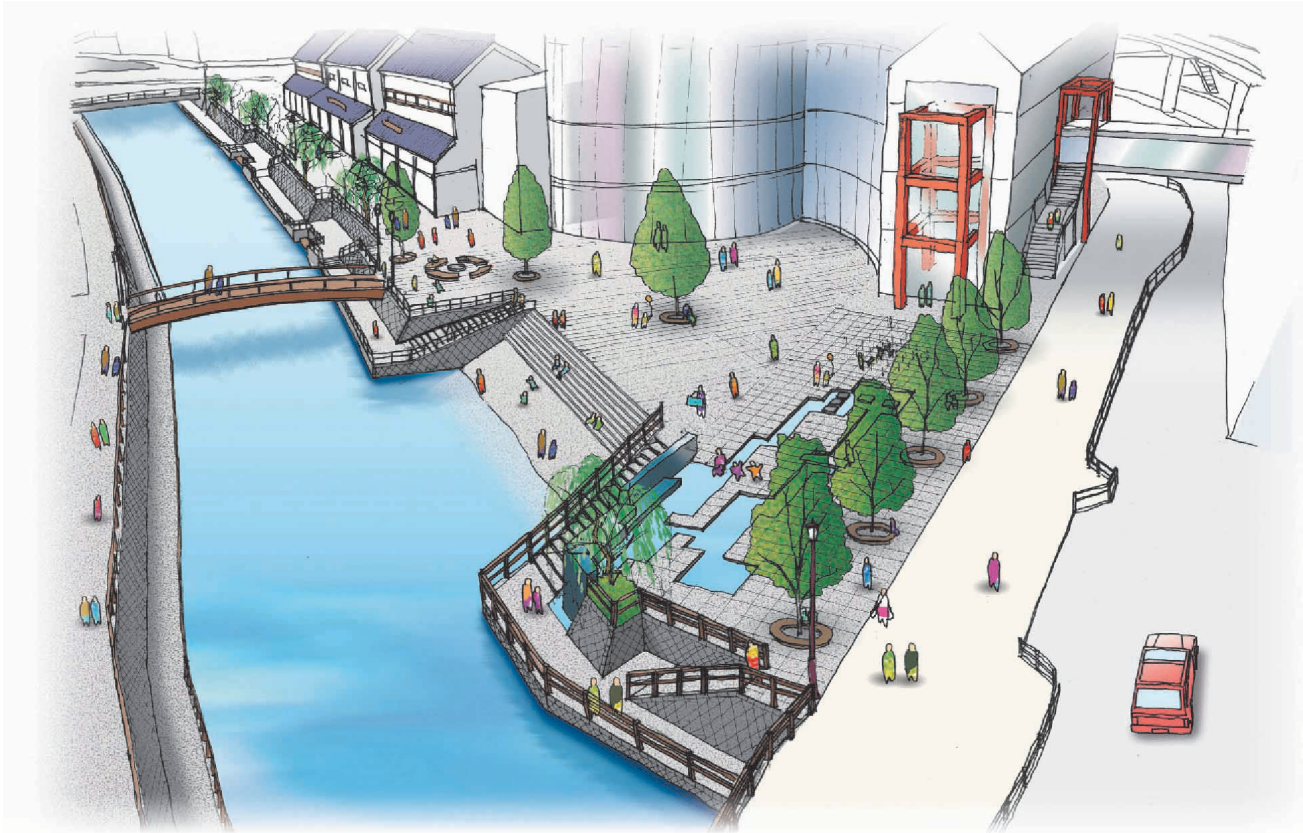


図-7 水辺空間整備プランイメージ図（南側 鳥瞰）

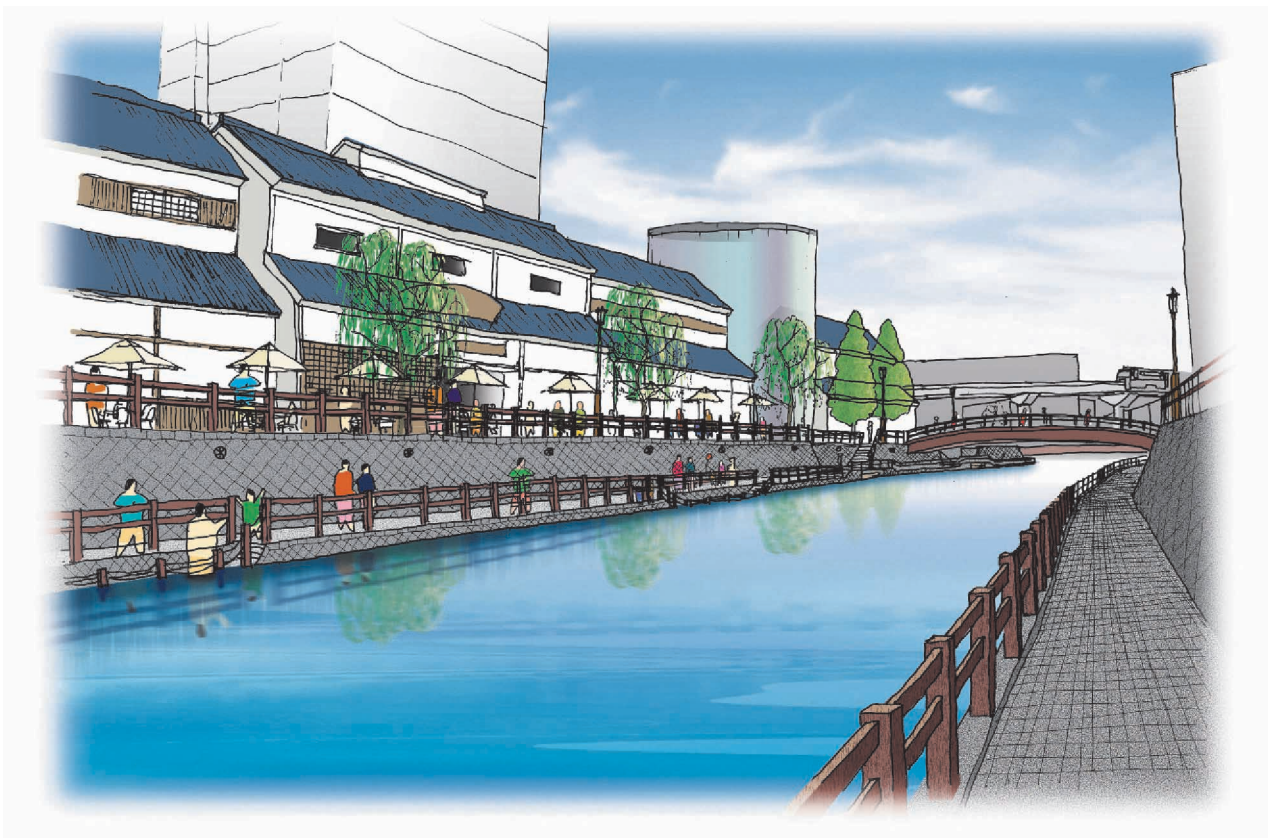


図-8 水辺空間整備プランイメージ図（小段部より望む）

7. 水辺空間整備の評価と課題

本考察では、「賑わい」をより多くの人々が利用できる機能を有した空間と読み替え、プランの作成を行った。想定した利用者から抽出される利用形態を、河川事業及び再開発事業の一体化により、単独事業では困難な機能配置や敷地設計として提案することができた。

今回は、河川事業及び再開発事業範囲内での検討にとどめたが、北九州市のシンボルとして整備していく場合には、紫川本川や周辺の建物の規制誘導を含めた、総合的な環境・景観検討を行う必要がある。

今後の課題は、以下の通りである。

- ・再開発ビル等の設計との一体性の確保
再開発ビル等の実施設計に伴い、今回の整備計画との一体性を確保する必要がある。特に整備コンセプトの一体化（すり合わせ）が必須である。
- ・障害者や高齢者に対する利用性への配慮
管理用通路、広場等へのアクセスについては、障害者及び高齢者を考慮し平面性を保つプランとしたが、小段部分の水際に降りるためのスロープ等については、敷地面積の制限から設置することができなかつたため、利用性に関する検討を行う必要がある。
- ・紫川との連続性
紫川では、水辺のプロムナード整備が実施され、水際を歩くことや、商業施設との一体整備も行われていることから、今後、紫川との連続性（アクセス性の確保、それぞれの特性に配慮しつつ一体性の創出）について検討していく必要がある。
- ・左右岸の一体感、回遊性の向上
左岸側については、中層の商業・業務ビルが川に背を向けた形で建っていることから、更新時期にあわせ、ダブルファサードの建築意匠や壁面線のセットバックによる、ゆとりある水辺空間の確保が必要となる。

また、維持管理上の問題として、以下の点について検討する必要がある。

- ・水位変動に伴い低水敷空間が冠水した時にたまるゴミや汚れ等の清掃
- ・樹木・雑草の管理
- ・多人数の利用により発生するゴミや汚れの対策

8. おわりに

最後に本研究に際し、ご指導、ご助言をいただいた北九州市建設局下水道河川計画課、同建築都市局再開発課の方々に厚く御礼を申し上げます。